

第1回地区意見交換会及び意見等記入票における主な意見

1 全日制課程について	1
(1) 重点校、拠点校、地域校	1
(2) 学校規模・配置の考え方	5
(3) 具体的な学校規模・配置について	10
2 定時制課程・通信制課程の配置について	11
3 その他	12
(1) 学科等について	12
(2) 生徒の通学について	14
(3) その他	15

平成28年11月

1 全日制課程について
 (1) 重点校、拠点校、地域校

地区	地区意見交換会等の主な意見
東青	<p><全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校、拠点校、地域校の配置の考え方は良いと思う。 ○ 高校でどのようなことに取り組むのかといった目標や夢を持つためにも重点校、拠点校、地域校という言葉をもっと浸透させてほしい。 ○ 重点校、拠点校、地域校を配置することは良いと思うが、重点校等の名称は再考してほしい。子どもたちのモチベーションの低下につながるおそれがあるため、表現上の格差はなくしたほうが良い。 <p><重点校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校の取組がイメージしづらいため、重点校の意味が理解されていないのではないか。 ○ 重点校は教員配置等の面で手厚くするという印象を強く受けるため、重点校以外の学校の保護者等がどのような受け止め方をするのか気に掛かる。 <p><拠点校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職業教育を主とする専門学科と普通科等の連携は考えられないのか。 <p><地域校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域住民からは募集停止基準に該当した際には機械的、事務的に募集停止とするのかといった不安の声が聞こえている。 ○ 青森北高校今別校舎について、地域校として存続することは良いことだと思うが、募集停止する際には、地域と話し合いながら進めてほしい。 ○ 青森北高校今別校舎が募集停止になることにより通学が大変になるとは思うが、通学する手段はあると思う。
西北	<p><全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校等の試案についてはおおむね良いと考えている。 ○ 重点校、拠点校の候補校については、西北地区の今までの歴史を見ても異議はない。 ○ 重点校、拠点校の配置というのは、伝統ある学校を存続するという趣旨に聞こえる。 <p><拠点校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 拠点校の候補校である五所川原農林高校は、例年志願する生徒が多い学校であり、その取組に期待している。 <p><地域校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域校について、科目の開設状況が厳しいということは分かるが、ICTを活用した取組により、学校として維持できるのではないかと。 ○ 地域校という枠組みを作ってくれたことはありがたい。中里中学校から金木高校に進学する生徒が十数名いるが、その生徒たちが中里高校に入学するように対策を講じるのも、市町村の仕事ではないかと考える。 ○ 生徒数が少ないので募集停止ということは仕方がないことだと思うが、通学できる学校がなくなれば、子どもたちはどうすれば良いのかと心配になる。

地区	地区意見交換会等の主な意見
中南	<p>＜全般＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校、拠点校の候補校については、目的・観点から見ても、適当であると受け止めている。 ○ 重点校、拠点校の候補校については、全県的なバランスが考慮されており、おおむね適当なものであると感じている。 ○ 重点校、拠点校の充実が優先されると、連携校の質的低下が懸念される。（意見等記入票） <p>＜重点校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校の教職員に負荷がかかるのではないかと心配している。 <p>＜拠点校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 拠点校については、地域間で産業が違うので、中南地区に農業科、商業科の拠点校の候補校があったほうが良い。 <p>→ 資料3 P7（中南地区に農業科、工業科、商業科の拠点校を配置）</p>
上北	<p>＜全般＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校、拠点校の配置について、大筋では同意している。（意見等記入票） ○ 重点校・拠点校・地域校の配置については、子どもたちのことを第一に考えて進めてほしい。 ○ 6地区において、高校教育の質が高いレベルで確保されている重点的学校、拠点的学校の継続的な配置を含め、重点校、拠点校、地域校の配置について、よく考える必要がある。 <p>＜重点校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちが将来リーダーとなるために活躍できる場や全国レベルの学習環境が地域として必要であることから、重点校は必要であると考えます。 ○ 重点校においては、医師だけではなく、看護師などの専門分野に生かせるような教育も必要である。 ○ 青森県全体の東京大学合格者数を見ても、岩手県立盛岡第一高校1校の合格者数に届いていない現状から、重点校には既成概念の枠を外した取組が求められる。（意見等記入票） ○ 医師や弁護士を目指す学校教育を推進するためには、県立三本木高校附属中学校との関係を整理する必要がある。（意見等記入票） ○ 重点校について、地区内に複数校設置し、競い合いながらレベルアップを図ることが出来たら良いと思う。（意見等記入票） ○ 重点校は地区で1校となると、その学校だけに力が注がれる印象を受ける。 ○ 重点校が求める生徒像は、もう少し地域の実情に合ったものとし、教育の質の保障について考えてほしい。 ○ 現在は就職率よりも進学率の方が上回っている状態であるため、重点校の設置は大事なことであり、重点校と連携校が情報交換等をしながら進学に力を入れていけば、全国や世界で活躍できる人材を育成できると思う。 <p>＜拠点校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 農業が盛んな地域であるため、農業科の拠点校を設置する案に賛成である。 ○ 上北地区は、土木建設会社が多く存在する地域であり、地域ニーズを考慮し、十和田工業高校を拠点校とすべきである。（意見等記入票） ○ 三沢商業高校は、高崎商科大学の高大連携プロジェクト北海道・東北ブロック協定校として認定され、商業高校としては全国トップクラスにあることから、拠点校とすべきである。（意見等記入票） <p>→ 資料3 P10（上北地区の重点校を三本木高校、三沢高校とし、農業科、工業科、商業科の拠点校を配置）</p>

地区	地区意見交換会等の主な意見
下北	<p><重点校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 下北地区で不足している医師の確保や選抜性の高い大学への進学を目指すため、下北地区には重点校が必要である。 ○ 下北地区の学校規模・配置は、現状がベストだと思うが、1学年5学級で重点校となる田名部高校については、手厚い教職員の加配をお願いしたい。 ○ 医学部進学コースの設置を含めた医師を志す高校生の教育環境への配慮として、単に重点校を配置するだけではなく、具体的な取組を示してほしい。
	<p><拠点校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ むつ工業高校は、原子力関連産業に多数の卒業生を送り出しているという実情があることから、個人的にはむつ工業高校が工業科の拠点校にならないものかと考えている。 → 資料3 P12 (下北地区に工業科の拠点校を配置) ○ 専門的な学習を深め実績を築いている高校生の活躍は、県が目指す未来を担う人財育成そのものだと思う。(意見等記入票)
	<p><地域校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大間高校を地域校として存続していく方向性は嬉しい。 ○ 大間町でも大学等への進学を考える保護者が増えており、地域校としての大間高校の役割は非常に重要だと考えている。 ○ 重点校と地域校が連携して取り組む体制を取り入れると、高い学力の生徒も大間高校で学習できると思う。 ○ 地域の公共交通機関の状況を考えると、大湊高校川内校舎も地域校として残していただくことを切望する。(意見等記入票) ○ 基本方針の「募集停止等に向け」は過激な表現だと思う。例えば、「存続の可能性等について」という表現に修正してほしい。 ○ 2学級規模の地域校について、「入学者数が40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として1学級規模とします。」とあるが、その後の中学校卒業者が増加する見込みであるならば、柔軟な対応をお願いしたい。

地区	地区意見交換会等の主な意見
三八	<p>＜全般＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校、拠点校の候補校については、適切だと考えている。 ○ 生徒減少を考えると、高校の重点化、拠点化はやむを得ない。 ○ 重点校、拠点校、地域校の考え方は問題ないと思うが、連携イメージは昔の土農工商のイメージに似ていると感じる。普通科が一番上にあり、それに続いて農業科、工業科が続いているように見える。重点校という看板をつけると、序列を中学生に植え付けられるのではないかという心配があり、重点校、拠点校、地域校という言葉は気にかかる。
	<p>＜重点校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校の候補校については、知識基盤社会やグローバル化等、今後の変化の激しい社会で高校生を育てる点から賛成である。 ○ 試案ではなぜ八戸北高校が理数教育の重点校の候補校にならなかったのか疑問である。重点校の設置基準等を定めるのかを知りたい。なぜ八戸高校だけが重点校の候補校となったのか、保護者や子どもたちに説明できるようにしてほしい。 → 資料3 P14（三八地区の重点校を八戸高校、八戸北高校として配置） ○ 6学級規模の普通高校については、重点校という名称を付けないまでも、重点校的役割を果たす高校として設置し、やがて5学級、4学級と学級減していく際に、その役割について再検討するという考え方もあるのではないかと。 ○ 八戸高校を重点校とすることにより、高校の序列化が加速する恐れがあるため、子どもたちにプレッシャーがかからないようにしてもらいたい。 ○ 重点校においては、バランスの良い教育活動が実施されるとともに、地域に適切な情報が提供されることを期待する。（意見等記入票） ○ 重点校において併設型中高一貫教育を行った場合、中学校入学段階での競争が激化し、小学校にも影響が及ぶ懸念がある。（意見等記入票）
	<p>＜拠点校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 商業の授業を行っている普通科の高校も多いことを考えると、県南に商業科の拠点校があっても良いのではないかと。 ○ 工業科、水産科、農業科、商業科では、将来のスペシャリストを育成しており、多様な学びを提供する拠点校の整備が必要である。
	<p>＜地域校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域校の候補校について、田子町の清水頭地域からの通学を考慮していただいたものと感謝している。 ○ 地域校の候補校が示された際に、違和感を覚えた。 ○ 地域校については、総合高校のような選択肢がないと生徒も選べないのではないかと。 ○ 地域校への対応について、募集停止や統合をすることとなった場合の当該高校の所在する市町村等との連携・協力の内容や在り方について、早期に検討する必要がある。（意見等記入票）

(2) 学校規模・配置の考え方

地区	地区意見交換会等の主な意見
東青	<p><充実した教育環境の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全体の学級数が減っていく中でも学校規模を維持して子どもたちに部活動等を含め様々な体験をさせ、子どもたちが広い視野を持てるような教育環境の整備をお願いしたい。 ○ 近隣の普通高校と職業高校などが学校の枠を超えて就職に必要な科目や進学に必要な科目を選択履修できるような連携を検討してはどうか。(意見等記入票) <hr/> <p><地域の実情への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 募集学級数を考慮する必要があるが、小規模であっても可能な限り学校を存続するという考え方もあると思う。 → 資料3 P1 (全ての学校を残す) ○ 平内町の中学生は青森東高校平内校舎 (㊸1学級募集) ではなく青森市内の高校への進学を希望している。平内校舎には青森市の子どものうち市内の高校に進学できなかった子どもが入学している。これからは地元の子どものみが地元の学校を良くするという認識を持ち、保護者や地域が変わっていかねばいけない。 → 資料2 P1~P23 (1~3学級規模の高校の志願・入学状況等) ○ 青森東高校平内校舎が存続することで他校の学級減をしなければならないという点を考慮する必要がある。 ○ 地域校を除き、校舎制導入校は計画的に募集停止とし、現在2学級規模の高校も今後一定の基準に満たない場合は募集停止すると明確に示すべきである。(意見等記入票) ○ 小規模校を募集停止する際は、小規模であることのデメリットを地域や保護者に十分説明し、子どもたちを中心とした学校規模・配置であることへの理解を得るべきである。(意見等記入票) ○ 地域の学校がなくなることはその地域に非常に大きな影響を及ぼすため、地域の理解を得る努力をしてほしい。 ○ 極めて少数だが、フェンシング部で活動するために新幹線で青森市内から今別校舎に通学している生徒もいる。一方で、今別町内から新幹線で青森市内の高校に通学している生徒が二人いるが、通学可能な高校は限られる。新青森駅からの冬季の通学が可能か懸念される。 <hr/> <p><連携校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 普通科等の連携校については、青森北高校のスポーツ科学科のように教育内容を明確にした特色化を図ってほしい。 ○ 高校に入学してから夢を探すような子どもたちにも夢を持たせることが、連携校のあるべき姿であると思う。 ○ 基本方針の記載では、地域校以外の高校についても地域校の募集停止基準に該当しなければ募集停止等とならないように誤解される懸念がある。 ○ 青森東高校平内校舎における入学者数は募集人員の2分の1を超えているため、平内校舎が存続すると考える人がいると思う。 ○ これから学校規模、配置について意見交換していくこととなるが、何らかの基準を設定した上で、基準に該当した学校について統合等の検討を行ってはどうか。 → 資料2 P24~P30 (本県及び他県における学校配置の考え方)

地区	地区意見交換会等の主な意見
西北	<p>＜充実した教育環境の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校については、5学級以上なければ大学進学へ対応することが難しくなるため、規模を維持することは賛成である。 ○ 学校規模による開設科目状況を見て、自分の子どもが高校に進学するには大きな高校に入学させたいと感じた。 ○ 学校規模の大きい学校がないので、大学進学やスポーツを頑張りたいという希望により、他地区の高校に進学する生徒もいる。
	<p>＜地域の実情への配慮＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの学力向上や高校教育を受ける機会に配慮した学校配置を望みたい。 ○ 鰯ヶ沢町は、地理的に広域な地域であり、鰯ヶ沢高校（28 2学級募集）がなくなると通学が困難になる子どもが多数発生することを懸念している。 ○ 板柳高校（20 2学級募集）は隣接する市町村からも通学しており、ほぼ100%の定員充足率でもあるので、子どもたちの選択肢を狭めないよう配慮してほしい。 ○ 普通科の連携校4校（板柳高校、鶴田高校、金木高校、鰯ヶ沢高校）は、現在、全て2学級募集だが、1学級募集にして学校を残すのが現実的である。ただ、1学級募集とすると部活動数や開設科目数が少ないため、高校としての魅力が薄れ、多くの中学生が私立高校を志望する可能性がある。 ○ 生徒数が減少し、学校運営も厳しくなると思うが、ぎりぎりまで現在の学校数を維持してほしい。（意見等記入票） → 資料3 P2（全ての学校を残す） ○ 西北地区の小学校は30年前と比較して約3分の1まで減少しており、高校の統廃合もやむを得ないとする。一方、子どもたちの選択肢が減ることや、通学費等の負担が増加することにより、高校進学率の低下につながることを懸念される。 ○ 小泊地域の子どもたちは、中里高校がなくなると朝5時台に家を出なければ五所川原市内の高校まで通学できない。市浦地域や小泊地域出身で、勉強やスポーツが得意ではない子どもはどこの高校に進学するのかという気持ちでいる。
	<p>＜連携校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高校への進学を希望している全ての中学生に対して、高校教育を受ける機会を確保するような学校配置を考えなくてはならない。特に、重点校・拠点校に進学できない子どもの受け皿を確保するためにも、連携校の配置は慎重に考えなければならない。 ○ 重点校や拠点校だけではなく、子どもの学力に配慮した学校配置を検討してほしい。

地区	地区意見交換会等の主な意見
中南	<p data-bbox="261 210 608 241">＜充実した教育環境の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="261 253 1437 456">○ 小規模校になればなるほど、よりきめ細かな指導ができるというものの、より多くの生徒たちと関わり、様々な個性や多様な価値観に触れること、また自立に向けて集団生活を通したいろいろな経験の積み重ねが難しくなっていくと思う。充実した教育環境のためにはお互いに切磋琢磨するという意味においても、統廃合により基本となる学校規模である1学年4学級以上で進めてもらいたい。 <li data-bbox="261 472 1437 546">○ ある程度思い切って高校を少なくして、各学校の生徒数を増やすことが良い方向だと感じている。そうしなければ競争意識が生まれないと感じる。 <li data-bbox="261 562 1018 593">○ 部活動を同じ学校単位で取り組めるようにしてもらいたい。 <hr/> <p data-bbox="261 607 555 638">＜地域の実情への配慮＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="261 651 1150 725">○ 学校規模があれば良いが、小規模校であっても学校を残した方が良い。 → 資料3 P6 (全ての学校を残す) <li data-bbox="261 741 1437 815">○ 高校がなくなると地域の元気がなくなり、人が集まらなくなってしまうので、地域づくりとともに高校の配置も考えていければ良いのではないかと。 <li data-bbox="261 831 1437 943">○ 中南地区は比較的公共交通機関の利便性が良く、進路の選択肢も確保されている。今後、生徒数が減っていく中であっても学校配置には配慮してもらいたい。居住地域によって高校へ通学することができない生徒が生じないような学校配置を検討してもらいたい。

地区	地区意見交換会等の主な意見
上北	<p data-bbox="260 208 606 241">＜充実した教育環境の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="260 248 1203 282">○ 活気のある教育活動を考えると、望ましい学校規模は4学級以上だと思う。 <li data-bbox="260 293 1433 371">○ 子どもたちが減っていく中、学校規模の標準は、果たして4学級以上で良いのかという疑問を感じる。 <li data-bbox="260 383 1043 416">○ 重点校の学校規模は、6学級以上を前提に考える必要がある。 <li data-bbox="260 427 1433 595">○ 重点校の学校規模は6学級以上を標準としているが、生徒数が全体的に減少していく中で、高校教育の質の確保・向上が可能なのか。重点校の規模を維持していくために、これまで連携校に入学していた生徒を重点校が受け入れることになるか考える。その結果、重点校の合格ラインが下がるのではないかと懸念される。 <li data-bbox="260 607 1433 685">○ オール青森の視点で、各地域の学校を支援していくことを考えれば、一定規模の高校は残した方が良い。 <li data-bbox="260 696 1433 775">○ 学級数が少なくなっても学校を残した結果、学校に活気がなくなるようであれば子どもたちにとって良くない。 <hr/> <p data-bbox="260 781 552 815">＜地域の実情への配慮＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="260 822 1433 900">○ 2学級、3学級規模の学校で、どのようにして質を落とさない高校教育ができるのか、地域と連携してどのような高校教育ができるのかといった議論が必要である。 <li data-bbox="280 911 654 945">→ 資料3 P9 (全ての学校を残す) <li data-bbox="260 956 1433 1034">○ 2学級規模の十和田西高校は統合を検討することになるのではないと思うが、観光科という特色ある学科を有し、地域貢献に取り組んでいるため、是非残してほしい。 <li data-bbox="260 1046 1433 1124">○ 野辺地高校 (20 3学級募集) は、北部上北地域の生徒が通学する上で過度の負担なく、大学に進学ができる学校として必ず配置してほしい。 <li data-bbox="260 1135 1433 1214">○ 特定の地域においては、昨年度よりも中学生が増えているという実情を考慮した学校配置してほしい。 <li data-bbox="260 1225 1433 1303">○ 三沢商業高校は、過去3年間の在校生の出身中学校が、三沢市を中心に上北郡、三八地域の39校となっており、広域からの入学希望者が非常に多いことを考慮してほしい。 <li data-bbox="260 1314 1433 1393">○ 保護者の負担及び郡部・都市部の地域格差の生じることのないよう、細心の配慮が必要である。(意見等記入票) <li data-bbox="260 1404 1433 1527">○ 普通科志望者は全中学生の半分以上を占めているが、上北地区において将来削減対象になると思われる2学級以下の学校のほとんどは普通科であることから、これらの学校が募集停止となれば、ますます普通科の定員割合が減ることになる。(意見等記入票) <li data-bbox="260 1538 1433 1617">○ 生徒数の減少を前提とした計画では、学校規模の標準を満たさない学校の統廃合など、一方向だけになるのではないか。(意見等記入票) <hr/> <p data-bbox="260 1624 392 1657">＜連携校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="260 1664 1433 1742">○ 重点校・拠点校が各校とどのような連携をするかについては、具体的な取組を考える上で相当な研究が必要である。 <li data-bbox="260 1753 1433 1832">○ 資料を読んだだけでは、重点校・拠点校と各校がどのように連携するのか、イメージが湧いてこない。 <li data-bbox="260 1843 1433 1966">○ 学校配置よりも先に、重点校・拠点校と連携校との具体的な連携策の検討が必要だと思う。教職員・生徒が時間に追われている現状を見ると、連携は画餅に帰すことになるのではないと思う。(意見等記入票) <li data-bbox="260 1977 1433 2101">○ 医療系を目指す教育に重点を置く学校、グローバル社会に対応できる能力を身に付けることに重点を置く学校を配置し、子どもたちが自らの希望で選択できるような学校というイメージを持てるようにしてほしい。

地区	地区意見交換会等の主な意見
下北	<p>＜充実した教育環境の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校の学校規模の標準は1学年当たり6学級以上となっているが、学校運営を経験した立場として妥当だと考える。 <hr/> <p>＜地域の実情への配慮＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小規模校も細やかな指導を続けており、将来の学校規模・配置から除かれることのないよう強く要望する。 → 資料3 P11 (全ての学校を残す) ○ 大間高校 (20学級募集) が募集停止となることは、北通り地区にとっては考えられないことであり、特段の配慮をお願いしたい。 ○ 現在、本県の中学生の高等学校等への進学率は約99%であるが、高校の募集人員を削減した場合、進学率を維持できるか危惧している。 ○ 現在の下北地区の学校配置は、バランスが良く、生徒の進路の選択肢が確保されていると考える。 <hr/> <p>＜連携校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 距離のある拠点校との連携についての環境を整備してほしい。(意見等記入票)
三八	<p>＜充実した教育環境の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教員や部活動の数を確保すること、子どもは集団で学び合いながら、社会に求められる力を身に付けることを考えると、ある程度学校の規模は必要と考える。 ○ 拠点校については、専門的な幅広い知識が必要であり、4学級が必要である。 <hr/> <p>＜地域の実情への配慮＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通学には経済的な問題もあり、学校配置に当たっては、通学環境について考慮してほしい。 ○ 郡部の学校は、各学年1クラスになっても残してほしい。(意見等記入票) → 資料3 P13 (全ての学校を残す) ○ 三戸高校 (20学級募集)、五戸高校 (20学級募集)、田子高校 (20学級募集) とも定員に満たない状況にあるが、入学した生徒は必要があってそれぞれの高校に入学していることを考慮し、小規模でも良いので、郡部の学校を残してもらいたい。 ○ 親の送迎に係る拘束時間や、費用が負担になっていると聞く。三戸郡にも高校は必要である。 ○ 住む地域によって通学環境に差が生じないように、新郷村から公共交通機関により通学可能な五戸高校、保護者が送り迎えしている現状の三戸高校については、学級数が減っても存続してもらいたい。 ○ 三戸町では小中一貫教育を行い、三戸高校とは連携協定を結んでいることから、小中一貫教育を行う上では、三戸高校は必要である。 ○ 基本方針には、連携型中高一貫教育の見直しについても掲げられているが、田子高校は卒業生全員の進路決定を達成しており、一人一人の生徒が活躍できる場を与えてもらっている。 <hr/> <p>＜連携校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校・拠点校と各高校との連携が円滑に進められ、実効性のあるものとなるよう、現場の意見を参考にして進めてほしい。(意見等記入票) ○ 連携イメージ図の「地域校と各高校が連携・協力して」という表現は、地域校が中心となるような印象を与えかねない。(意見等記入票) ○ 地域校以外の学校についても、地域校の観点にあるように、地域の人々が納得できるような基準を示した上で協議を進めてほしい。

(3) 具体的な学校規模・配置について

地区	地区意見交換会等の主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職業教育を主とする専門学科と普通科の統合による連携を考えてほしい。 ○ 他県の統合例を見ると工業科や商業科と普通科が統合している。拠点校と普通科の高校の融合も必要であると感じている。 → 資料2 P31 (他県における異なる学科を併設した高校の事例)
西北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鶴田高校、板柳高校、金木高校を統合し、新しい学校を作り、通学バスの補助金等も含め検討してほしい。また、統合校は、西北地域の中心に位置する鶴田町に配置してほしい。 → 資料3 P3 (金木高校、板柳高校、鶴田高校を統合して新設校を配置) ○ 専門的学習を総合的に提供し、質の高い専門学科の学校とするため、農業科と工業科の高校を統合してはどうか。(意見等記入票) → 資料3 P4 (五所川原農林高校と五所川原工業高校を統合して新設校を配置) ○ 現在2学級規模の普通科の連携校4校について、第1期実施計画期間中は1学級募集で対応し、第2期実施計画期間中に大きく統合して4学級規模の学校を新設してはどうか。 → 資料3 P5 (第1期実施計画期間中は金木高校、鯉ヶ沢高校、板柳高校、鶴田高校を1学級規模で残したうえで、第2期実施計画期間で統合し4学級規模の新設校を配置) ○ 木造高校と金木高校が統合となった場合、学力面の差が心配である。 ○ 東青地区や中南地区の学校を減らしてでも、西北地区の学校を残して、東青地区や中南地区の子どもを西北地区の学校に進学させるという考え方をしても良いのではないかと。 ○ 通学手段を考えながら、統合による2学級規模の地域校が必要である。(意見等記入票)
中南	<ul style="list-style-type: none"> ○ 黒石高校と黒石商業高校のこれまでの教育活動の実績を見ると、両校の教育活動を生かしていきたいという願いから、どちらかをなくするというのではなく、他県の例でもあったように、普通科と専門学科の双方の機能を持った総合的な高校として、黒石高校と黒石商業高校の統合を提案したい。 → 資料3 P8 (黒石高校と黒石商業高校を統合して新設校を配置) ○ 黒石高校と黒石商業高校を一つにして黒石高校としても、地元としては問題ない。(意見等記入票) ○ 統廃合があっても良いと思う。また、一つの校舎に2つの学校が同居することがあっても良いと思う。 ○ 昭和40年代と比較しても、1万人以上生徒数が減少しているのにも関わらず、学校数は当時よりも多い。将来的に生徒数が減少する状況から判断して、私立高校とのバランスも考慮し、中南地区の県立高校は6校程度で良いと思慮する。(意見等記入票)
上北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒のニーズに対応するため、将来的には異なる学科を複数有する学校も必要になってくると思う。
下北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成29年からの5年間で下北地区の中学校卒業生数が約100人減少することを踏まえると、学級減のみの対応で良いのかということを考えなければならない。
三八	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三戸郡にも多様な学びができる高校の設置について検討すべきである。 ○ 三戸郡に少なくとも1校を配置していただきたい。その場合、普通高校と農業高校の統合を視野に入れるべき。(意見等記入票) → 資料3 P15 (三戸郡にも多様な学びのできる高校を配置) ○ 地元の高校を残してほしいという希望もあるが、再編は避けられないのではないかと考えている。

2 定時制及び通信制課程の配置について

地区	地区意見交換会等の主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定時制課程においては、働きながら通学している子どもは非常に少なく、どちらかという様々な事情から全日制課程に通うことができない子どもの受け皿になっていると思う。定時制課程は、各地区1校程度の配置で良い。 ○ 学校に馴染めない子どもの受け皿となっているとともに、大学へ進学している実例もあるので、現状を維持してほしい。 ○ 定時制課程や通信制課程は、東青地区には1校あれば良いと思う。 ○ 各地区1校の配置とし、学習センターやカルチャーセンター等との連携を検討してはどうかと思う。 ○ 通信制課程については、ニーズがある。 → 資料2 P32 (本県における課程別生徒数及び学校数の推移)
西北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校の中途退学者数はどの程度か。中途退学した生徒の多くが北斗高校を志願している。3部制の高校が各地区にあれば良い。 → 資料2 P33 (本県における高校中途退学者数の推移) ○ 定時制課程と通信制課程の両機能を有する学校を県内6地区に均等に配置する必要があると考える。(意見等記入票) ○ 現在、働きながら学んでいる生徒はほとんどいないため、全日制課程の高校で様々な事情を抱える生徒に十分対応できるようにし、役割を終えた学校は閉校しても良いのではないかと。(意見等記入票)
中南	<ul style="list-style-type: none"> ○ 工業高校の定時制を普通科に転換することができないか検討してほしい。 ○ 尾上総合高校で3部制を継続するのであれば、弘前市内にサテライト教室を設けることなどについて考えてもらいたい。 ○ 定時制課程・通信制課程には、現在は働きながら学ぶ生徒はもちろん、様々な課題を抱えている生徒も通っており、広く学びの機会を提供しているところである。基本方針には現在の配置を基本とするとあるので、これまでどおりの配置をお願いしたい。
上北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定時制課程・通信制課程の学校配置については、現状の配置に同意するが、特別な支援を必要とする子どもが増えているため、そのような子どもと一緒に高校教育を受けられるような取組も考えてほしい。 ○ 不登校生徒の問題等に対応するためにも、最後のチャンスである定時制課程・通信制課程への入学は、定員内であれば生徒の希望を叶える方向であってほしい。(意見等記入票)
下北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本方針の方向性に賛同する。様々な事情を抱える生徒が高校教育を受ける機会として絶対に必要である。(意見等記入票)
三八	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定時制・通信制課程については、通学に考慮して、交通の便が良い所に設置してほしい。また、ICTや通信回線を利用するなど、多様な教育を受けられる環境を整備してもらいたい。 ○ 夜間部の志望者が少ない場合は、昼間部の募集人員枠を広げてはどうか。(意見等記入票)

3 その他

(1) 学科等について

地区	地区意見交換会等の主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合学科である青森中央高校や単位制を採用している青森東高校では様々な科目を履修できるが、その検証をしながら同様の高校が増えてくると良い。 → 資料2 P34 (他県における単位制を導入した高校の事例)
西北	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツや福祉等に重点的に取り組む学校や看護師等の後継者育成を考えた学校を期待している。 ○ 中学生それぞれの志に応じた主体的な学校選択が促進されるよう、進学や就職など幅広い進路選択に的確かつ柔軟に対応する総合学科の中核となる高校を設置する。(意見等記入票)
中南	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中南地区は普通科が少ないので、普通科は減らしてほしくないと感じている。しかし、子どもの減り方の現実を見ると、考えていく必要があると思う。 ○ 中南地区は普通科の学校数が少ないので、普通科の削減は最小限にしてもらいたい。 ○ ある程度様々な学科を有する学校を作らざるを得ないと感じている。 ○ 職業の多様化、生徒の興味・関心の多様化のため、生徒のニーズにあった学科等を選択できる配置をお願いしたい。 ○ 弘前市内の高校に観光に関わる学科・コースを設けてもらいたい。弘前大学でも人文社会科学部特設講義として、観光に関する「JR東日本寄附講義」を行っている。高校卒業後もそのような機会があることから、オール弘前体制で取り組んでいきたい。 → 資料2 P35～P37 (観光に関連する学習の取組事例) ○ 専門学科を卒業後、関連性のある大学へ進学したのか、又は、就職したのかなどの具体的な情報や資料を提供してほしい。(意見等記入票) → 資料2 P38～P40 (本県における職業教育を主とする専門学科の卒業生の進路状況)
上北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒のニーズに対応するため、将来的には異なる学科を複数有する学校も必要になると思う。 ○ 六ヶ所高校において原子力、風力や太陽光に関する専門家から指導を受けられるような魅力的な学科をつくり、生徒を全国募集しても良いのではないかと。 → 資料2 P41 (本県において環境・エネルギー教育に取り組む学科) P42～P44 (他県における全国からの生徒募集の事例) ○ 三沢高校は、英語科のノウハウを普通科の教育活動に還元することが考えられる。 ○ 三本木農業高校の寄宿舎を活用して、生徒を全国募集すれば良い。 ○ 専門高校に入学後、進路志望の変更等に伴い、普通科の高校に年度途中で編入できるような仕組みがあれば中学校としては助かる。 ○ 百石高校は、生徒にとって複数の学科を有する高校として貴重な存在である。 ○ 現状として建設産業の人材不足があるため、地域産業を生かした資格取得を通して専門職に就けるような学校づくりをしてほしい。 ○ 専門学科で学んで大学に進学する生徒が増えてきていることから、専門高校であっても普通科の進学校のように共通教科にも力を入れて、教育の質を向上させるような取組をしてほしい。 ○ 高校教育を受ける機会の確保とは、入学定員数枠を設けるものではなく、中学生が進学したい学科の配置と定員数を考慮したものでなければならない。(意見等記入票)

地区	地区意見交換会等の主な意見
下北	<ul style="list-style-type: none"> ○ むつ工業高校は、現在募集している学科を維持してほしい。（意見等記入票） ○ 大間高校に大間町・佐井村・風間浦村の産業に根ざした学科を設置できないか。 ○ 下北地区には、原子力関係の資格取得に取り組むことのできる環境が必要だと考える。併せて、放射線管理士などの資格取得に意欲がある普通科等の生徒に対する学習機会の確保もお願いしたい。
三八	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三戸郡では、職業教育を主とする専門学科の設置を希望している。 ○ 名久井農業高校に環境システム科ができたことにより、ものづくりの好きな生徒が進学している。 ○ スポーツ科学科や表現科など、県立高校の特色ある学科は大事にしてほしい。 ○ 三戸高校は商業科がなくなったことにより、コースはあるものの特色がなくなったように感じる。 ○ 三八地区の特色及び専門的な施設・設備の設置状況に鑑み、工業科と水産科の維持など、地域や産業の根幹を支える人材の育成は必須である。（意見等記入票）

(2) 生徒の通学について

地区	地区意見交換会等の主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校の数が減ったとしても、充実した教育環境が整備され、保護者の負担が増えなければ問題ないと考えており、県による通学支援等があれば良いと思う。 ○ 地域校が募集停止となった際には、通学手段の確保や寮の整備等により高校教育を受ける機会を確保してほしい。
西北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域校が閉校になった場合は、交通手段などの通学環境に配慮してほしい。
中南	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遠い地区から通っている生徒は公共交通機関を使用すれば交通費を無料にすることなどを考えてもらいたい。 ○ 通学に関するコストや安全について関心がある。オール青森ということで考えていくのであれば、バス会社等の産業界も一緒に意見交換できれば、具体的な検討につながるのではないかなと思う。 ○ 路線バスもあるが、複数の高校が協力して、高校というグループでスクールバスを出し、弘前駅までの通学に自由に活用できるシステム等があっても良いのではないかな。
上北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東北町の生徒は、高校への通学に青い森鉄道や路線バスを利用しているが、最寄り駅までもかなりの距離があり、親にとっては送迎の負担が非常に大きい。十和田市内の高校に通学するには、年間約25万円の交通費が必要になるため、交通費の負担を緩和できるような施策の検討をお願いしたい。
下北	<ul style="list-style-type: none"> ○ スクールバスの費用について、保護者の負担が大きいことから、学校教育に関するバス運賃制度などについて国土交通省へ働きかけていくことも大事になってくる。 ○ オール青森の視点で寄宿舎を活用することは大きな成果につながると考えるため、寄宿舎の活用を農業科以外の拠点校にも広げてほしい。(意見等記入票)
三八	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校、拠点校への通学手段の確保が必要であり、自宅から安心して通えるように公共交通機関との連携が不可欠である。 ○ 子どもたちが安全、安心して通学できることが重要であり、通学時間も重要である。通学ができないような地域については、高校教育を受ける機会を確保してほしい。 ○ 郡部の学校がなくなり、八戸市内の高校に通学する場合の保護者の負担を考慮してほしい。 ○ 交通機関及び費用に配慮することによる地域校の配置については、自己負担で私立高校に通学している生徒がいることも考慮した上で、不公平感が出ないように検討する必要がある。(意見等記入票) ○ 現状では、高校教育を受ける機会の確保と充実した教育環境の整備の二つを両立させることはできないと思う。充実した教育環境の整備を優先し、通学が困難な地域の生徒のためのスクールバスの運行や学生寮の設置等の対策を取れば良いのではないかな。(意見等記入票)

(3) その他

地区	地区意見交換会等の主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> ○ 工業科や小規模校に導入している35人学級を拡充し、きめ細かな指導をしてはどうか。 ○ 県の予算が子ども一人一人にどのように使われているのか検証してはどうか。現在、生徒一人当たりどの程度の費用が必要で、少子化が進んだ10年後にはどの程度になるか試算し、どうすれば費用対効果が上がるのか、教育の充実につなげるにはどうすべきかといった視点が必要ではないか。 → 資料2 P45 (本県の教育予算の状況) ○ 高校の統廃合に反対するのはPTAのOBや卒業生等であるが、現役の生徒や保護者に理解してもらえるよう取り組んでいくべきである。 ○ 中学生や保護者のニーズについては、市部の学校を志向する傾向が強く、私立高校を志望する傾向も強くなってきている。地元の高校に入学する生徒が少なくなっており、県立高校も魅力ある学校づくりが求められている。 ○ 高校の統合を検討する必要があることを保護者や中学校の教員は理解しているが、重点校等の取組内容等については理解できていないため、具体的な情報提供をお願いしたい。
西北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中里高校は、地元の中学生が入学すれば1学級を満たすのに、実際は20人を切っている。その理由を考えていく必要がある。 ○ 地元からは木造高校深浦校舎がなくなると困るという声は聞こえない。なくならないようにするにはどうしたら良いのかということを考えてくれる人が非常に少ないと感じる。 そこで、地元の間が、自分たちの子や孫が通える学校を残そうと動き、協力していければ良いと思う。 → 資料2 P46～48 (他県における高校と地域との連携事例)
中南	<ul style="list-style-type: none"> ○ 将来、高校に入学することとなる、現在就学前の子どもたちのためにどうしたら良いのかを前提にして考えていく必要がある。 ○ 1学級の定員を35人としてほしい。 ○ アクティブ・ラーニング実施の成果をあげるのであれば、1学級40人では多いのではないかな。 ○ 中学校卒業生数はゆっくり坂を下りるように減っていくのに対し、高校は階段を下りるように40人単位で定員が減っていくというのはいかがなものか。 ○ 県立高校と私立高校が共存できる募集人員のバランスが重要なポイントではないか。 ○ 最近、私立高校を第一希望にしている生徒が明らかに増えている。これが何を意味しているのか考える必要がある。 ○ 教職員が児童生徒にこれまで様々な教育指導を行っていた部分が教職員数の減によりできないということがあるので、教職員の配置については是非手厚い配慮をお願いしたい。 ○ 計画そのものが、生徒数減少に伴う行政の効率化を前提としており、その枠に当てはめるために様々な検討を進めているという感じがしてならない。将来における青森県の戦略を成し遂げるために教育としては、どのような人づくりをしていくのかという観点からの検討が足りないのではないかな。
上北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 普通科の1学級の定員は40人となっているが、35人という考え方はないかな。

地区	地区意見交換会等の主な意見
下北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料9の熊本県立阿蘇中央高校の事例に興味を持った。阿蘇中央高校のように統合後もそれぞれの校舎で授業を行う場合、2つの高校を統合し1つの校舎で授業を行う場合、統合をせずにそれぞれの高校を維持した場合の3つのパターンにおける教員数の違いを提示してほしい。 → 資料2 P49～P50 (公立高校の教員定数)
三八	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校においても特別な支援を要する生徒が増えてきている。教員数が確保できるのであれば、高校でも通級が可能になるような仕組みが必要と考える。 → 資料2 P51 (高校における特別支援教育の検討状況) ○ 小学校は年々特別な支援を要する児童が増えてきている。この子どもたちは、将来的には高校に入学することになるが、そのことに対する配慮が欠けているように感じる。保護者は、我が子は高校に入学できるのだろうかと不安に思っている。高校にも特別支援学級や通級指導教室を設置することを検討する必要がある。 ○ 三八地区は私立高校の数が多く、私立高校との兼ね合いも視点の一つとして必要ではないか。他地区の私立高校と県立高校の比率も気になる。 → 資料2 P52 (地区ごとの公立・私立別高校数) ○ 行政は、人口増加の方策について考えるべきである。 ○ 出生率の低下を食い止めるとともに、若者の県外流出を食い止めなければ本県の子ども数は増えない。 ○ ICTを活用した教育活動(遠隔教育等)についての検討状況を知らせてほしい。(意見等記入票) → 資料2 P53 (ICTを活用した遠隔授業の取組状況) ○ 各高校の特色を明示し、中学生に対して授業公開するなど積極的に情報提供を行い、中学生が適切に進路選択できるような配慮が必要である。(意見等記入票) ○ 教育を受ける権利を考えると、八戸市内の高校と地域校で同等の教育が保障されているのかという点に疑問があるので、地域校における教員配置について検討してもらいたい。